

「熟議」とは

「熟議」：多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。

政策を形成する際、

- ①多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって、
- ②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、
- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④解決策が洗練され、
- ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、

というプロセスのことを言う。

◆事例:

10年前、鹿児島県鹿屋市では地元医師会と県立病院が対立。救急車の市外搬送が多数発生。しかし、県立病院院長と医師会長などの関係者が積極的に熟議の場を開くことによって、問題解決のための画期的なシステムを考案、みんなで実行。今では、高度な治療まで地域内でできるようになった。また、3年前より小児夜間救急のコンビニ受診が増え、医療疲弊が問題となったが、ここでも、医療関係者と母親たちの熟議の場が多数設けられることによって、受診行動の適正化と診療の質向上につながった。

◎熟議の効果1：行政改革

- ・教育についての情報と議論が市民に広く開放される。
- ・行政が教育政策についての情報提供と熟議のファシリテーションをおこなうことで、市民と共に教育政策を考えることができ、現場と行政の間にある問題認識のギャップを縮小することにつながる。
- ・社会課題ベースの議論ができるので、「縦割り、横割り」行政を乗り越えた政策形成につながる。それによって、教育現場における社会課題について、迅速で効率的な対応が可能となる。

◎熟議の効果2：新しい教育文化の創造

- ・正しく潤沢な情報のもと、色々な関係者が本音をぶつけ合い、課題を認識。そして、課題解決に向けて徹底的に議論をすることにより、社会的合意を編集・創造する。
- ・これらのプロセスを通じて、「市民一人ひとりが教育の担い手として当事者意識を持って教育に関わり、良い教育、良い社会を創る」という市民文化を醸成していく。
- ・それぞれの地域で、教育を考えるための「リアル熟議」が開かれるようになることで、市民が居場所と出番を確認できるようになる。また、地域のつながりが形成される。

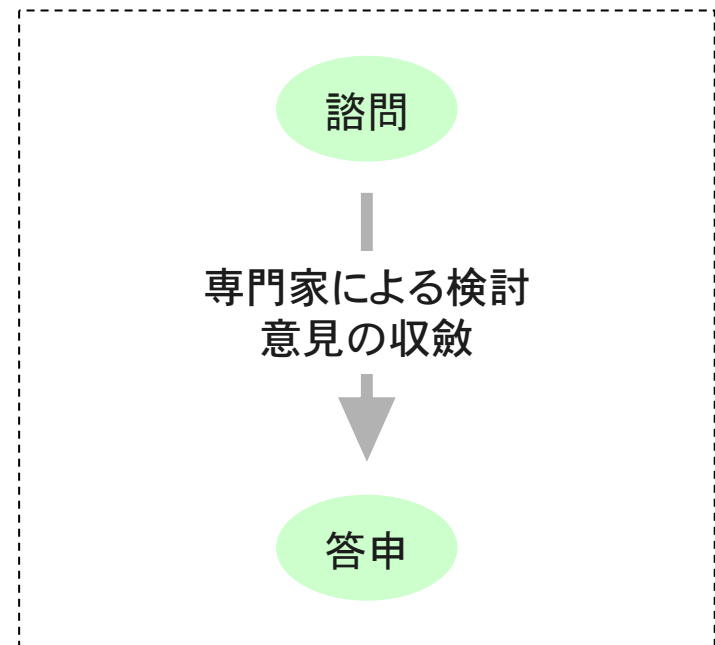
「熟議」に基づく教育政策形成の取組① - 文科省熟議による教育政策形成構想 -

中央教育審議会等における専門家による検討に合わせて、車の両輪として、当事者による「熟議（じゅくぎ）」に基づいた意見を踏まえ、政務三役にて政策決定を行う。

当事者による「熟議」



中央教育審議会等



「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会

政務三役

教育政策の決定

「熟議カケアイ」のテーマ運営状況・予定

【現行テーマ】

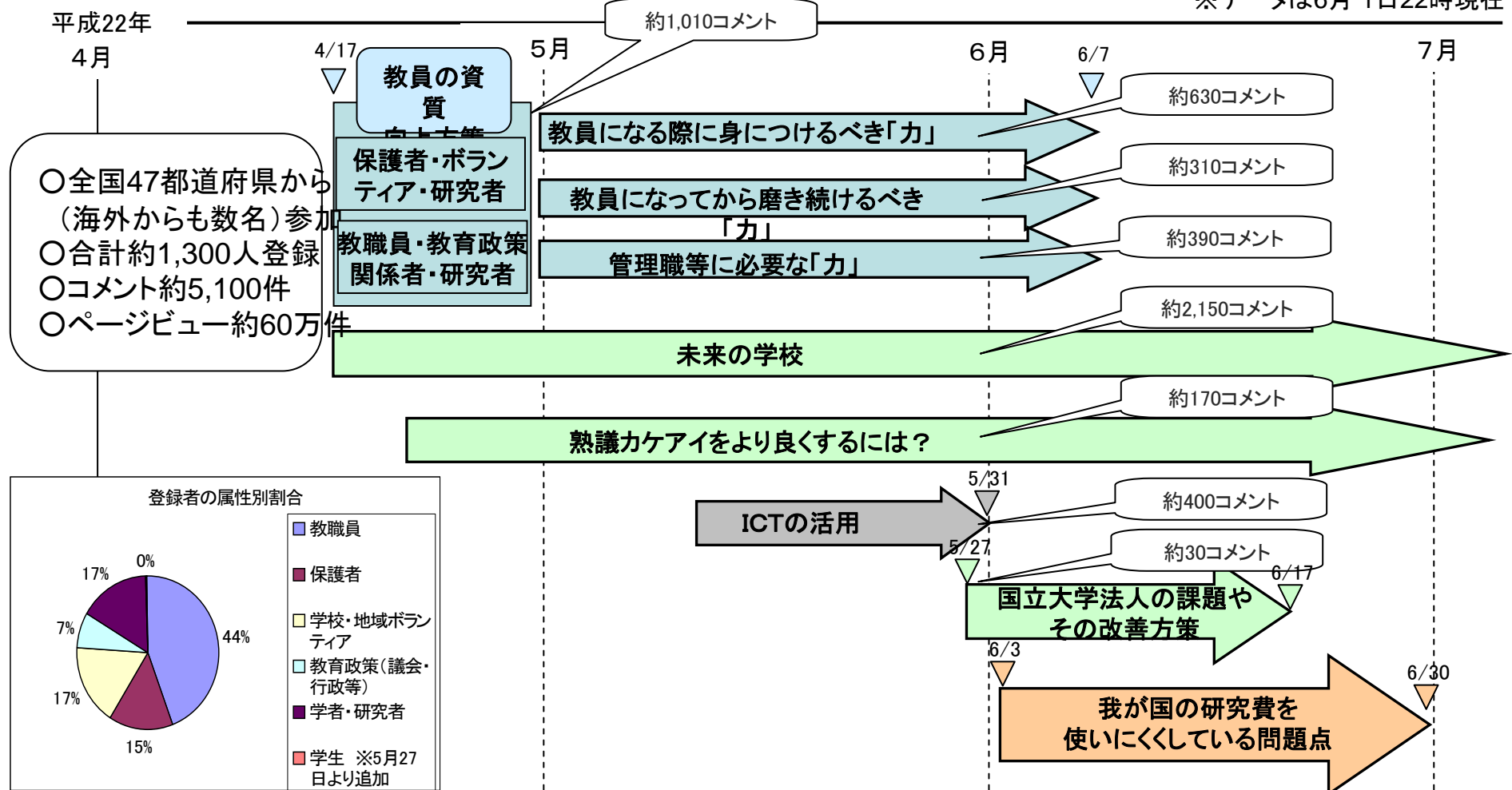
- 教員の資質向上方策（「教員になる際」、「教員になってから」、「管理職等」）
- 未来の学校
- 熟議カケアイをより良くするには？
- ICTの活用（既終了）
- 国立大学法人の課題やその改善方策

【開設予定テーマ】

○我が国の研究費を使いにくくしている問題点（6月3日（木）午後予定）

※データは6月1日22時現在

平成22年



○全国47都道府県から（海外からも数名）参加
 ○合計約1,300人登録
 ○コメント約5,100件
 ○ページビュー約60万件

